

第2次古賀市地球温暖化対策実行計画(区域施策編) 骨子案

資料3-1

【本編】

項目	項目ごとの記載内容
第1章 計画の基本的事項	
1. 計画策定の背景	●地球温暖化に関する基礎情報、世界及び日本の動向の概要を記載(詳細は資料編に掲載)
(1)地球温暖化と気候変動	●IPCCの報告書を基に地球温暖化及び気候変動について基本的な事項について記載 □地球温暖化が進行、人間活動の影響が大気などを温暖化させてきたことに疑う余地はない □国は緩和策と適応策を両輪で対策を推進することとしている
(2)地球温暖化対策を巡る動向	●国際動向や国の動向、古賀市の動向(前期計画の取組結果)を記載 □国際的な取組:パリ協定、SDGs □国の動向:カーボンニュートラル、地域脱炭素ロードマップ、気候変動適応法等 □市の動向:これまでの取組状況、ゼロカーボンシティ宣言
2. 計画の目的	●2050年ゼロカーボン実現の他、気候変動への適応、連携・協力の必要性等について記載 □2050年までにゼロカーボンシティを実現し、気候変動に適応する。 □市に関わる事業者や市民等が連携・協力し取り組むことが必要。
3. 対象とする者	●計画の対象者について記載 □市民や事業者(行政含む)、市に係るすべての人
4. 計画の位置付け	●上位計画や関連計画、関係法令について記載 □上位計画:古賀市総合計画、環境基本計画 □関連計画:事務事業編、生物多様性古賀戦略等 □関連法令:地球温暖化対策推進法、気候変動適応法、省エネ法等
5. 計画の期間	●第3次環境基本計画に合わせた期間で設定 □計画期間:2024年度~2033年度 □温室効果ガス排出量の基準年度:2013年度
6. 対象とする温室効果ガス	●温対法に準じた温室効果ガスを対象とする □温対法で定められた7種類のガス:CO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ O、HFCs、PFCs、SF ₆ 、NF ₃ □温室効果ガス排出量の算定:CO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ O
第2章 温室効果ガス排出量の現状	
1. 市域の温室効果ガス排出量	●2013年度を基準として算定 □基準年度(2013年度)以降、減少傾向で推移 □2020年度は約37万トン(福岡PayPayドーム約108個分)で、2013年度比 約-25%
2. 森林等による吸収量	●カーボンニュートラルの視点により第2次計画より算定する □森林等による年間のCO ₂ 吸収量は約4千トンで、排出量の約1%の規模
3. 部門別分野別排出状況	●分野別の状況を把握・比較し、取組を強化すべき分野を整理 □部門別割合を全国と比較すると、自動車部門からの排出割合が大きい。
第3章 温室効果ガス排出の将来推計と削減目標	
1. 将来推計	●温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量の数値を算定(排出係数の影響に配慮するため) □現状趨勢(BAU)ケースの場合の推計値 □対策を実施した場合の効果を見込んだ場合の推計値
(1)エネルギー使用量	
(2)温室効果ガス排出量	
2. 削減目標	●計画期間満了時に加え、2030年度、2050年度を視野に削減目標を設定 □長期目標2050年:温室効果ガス排出量実質ゼロ □2030年度:2013年度比で-46%(目標値は暫定。検討中) □2033年度:2013年度比で-(46+α)%(目標値は検討中)
(1)削減目標	
・2050年 カーボンニュートラル達成時の排出状況	
・どうしたら脱炭素化を実現できるか	●市民や事業者等が実施すべき削減対策の概要や順序、イメージを示す □エネルギー起源CO ₂ 排出量を大幅に削減するためには、以下の取組が有効。 ①エネルギー消費量の削減(省エネ)推進、②電化の促進、③エネルギーの脱炭素化
第4章 めざすべき将来像	
1. めざすべき将来像	●めざすべき将来像と具体的なイメージを分かりやすく記載【検討中】 □2050年の将来像:「ゼロカーボンシティを実現し、気候変動に適応したまち」 □文章 ①自然や景観との調和に配慮し、再エネ導入や省エネの推進、緑の管理に取り組む。 ②レジリエンス強化、移手段の充実など、市民が安心して快適に暮らせるまちとする。 ③脱炭素経営の促進の他、エネルギーの地域内循環により新たな産業が活性化する等、経済循環を生み出す。 □将来のイメージ図:環境省「地域脱炭素ロードマップ(概要)」P29~38を参考に活用予定
(1)めざすべき将来像	
(2)将来像の実現に向けた取組方針	●将来像の実現に向けた、内容別の取組方針を設定【検討中】 □方針1)再生可能エネルギーポテンシャルの最大活用によるエネルギーの地域循環の推進 □方針2)住宅・建築物へのZEB、ZEH導入等の省エネ活動の推進 □方針3)再生可能エネルギー熱や未利用熱、カーボンニュートラル燃料の活用推進 □方針4)地域特性に応じたデジタル技術を活用し、DX・GXの促進 □方針5)公共交通の活用とEVやPHEV、FCV等の活用によるゼロカーボン・ドライブの推進 □方針6)資源循環の高度化を通じた循環経済への移行推進 □方針7)CO ₂ 排出実質ゼロの電気・熱・燃料の利用と融通 □方針8)地域の自然を生かした吸収源対策の推進 □方針9)気候変動適応策の推進
2. 古賀市脱炭素ロードマップ	●削減目標及び方針、施策等をロードマップとして記載

【資料3-2】

【資料3-3】

【資料3-4】

第5章 温室効果ガス排出抑制に関する施策【緩和策】		
方針1～8	<ul style="list-style-type: none"> ●方針のねらい、市民や事業者が実施すべき取組、推進のため行政が実施すべきこと等を記載 ※ 施策の具体的な内容は関係課へのヒアリング等により検討を進める 	【資料3-5】
第6章 気候変動への適応に関する施策【適応策】		
方針9	<ul style="list-style-type: none"> ●方針のねらい、市民や事業者が実施すべき取組、推進のため行政が実施すべきこと等を記載 ※ 施策の具体的な内容は関係課へのヒアリング等により検討を進める 	
第7章 計画の着実な推進にむけて		
1. 計画の推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ●計画の推進体制を図等を用いて記載 □ 市民及び事業者の他、古賀市環境審議会、ぐりんぐりん古賀、古賀市環境政策調整委員会、地球温暖化対策等委員会が連携・協力しながら計画を推進 	
2. 計画の進行管理	<ul style="list-style-type: none"> ●カーボンマネジメントシステム(PDCA)を用いて進行管理を実施する □ 定期的に施策の点検・評価、見直し・改善を実施 □ 点検・評価結果は、市のホームページ及び環境報告書等で公表 	

【資料編】

●地球温暖化についてさらに学ぶための資料を掲載、手引きとしても活用できる内容としたい。

項目	項目ごとの記載内容
第1章 地球温暖化の現状	
1. 地球温暖化に伴う気候変動の影響	<ul style="list-style-type: none"> □ 地球温暖化：産業革命以前との比較してCO₂増加、GHG排出量シナリオ(現状以上の対策を取らなかった場合、厳しい温暖化対策を取った場合) □ 気候変動：2℃の上昇により発生するリスク、4℃の上昇により発生するリスク □ 気候変動の現状：豪雨災害の多発化・激甚化、熱中症の増加等、気候変動影響が顕在化している
2. 福岡における温暖化の状況と将来予測	
(1)気温の変化傾向	□ 福岡ではこの100年間で気温が顕著に上昇
(2)将来の気候変動予測	<ul style="list-style-type: none"> □ 将来的にさらに気温が上昇する予測 □ 豪雨災害等、災害リスクが高まる懸念 □ 気候変動により発生した事象、今後発生しうる事象
3. 地球温暖化対策に関する国内外の動向年表	□ 世界と日本のこれまでの動向を年表形式で整理
第2章 脱炭素関連資料	
1. 脱炭素関連情報の解説	<ul style="list-style-type: none"> □ 脱炭素に向けた取組をコラム形式で紹介 (例) ESG投資、脱炭素経営、カーボンオフセット、V2G、PPA、脱炭素と地域経済循環、電気自動車と燃料電池自動車、環境ラベル、家庭でできる省エネ・節電対策、ZEB・ZEH、しんきゅうさん、うちエコ診断、新国民運動「デコ活」、DX、GX
第3章 温室効果ガス排出量の現状と将来推計	
1. 現況推計	
(1)温室効果ガス排出量の推計方法	□ 計画策定に使用した計算方法、使用した資料名称等を記載
(2)CO ₂ 吸収量の推計方法	□ 計画策定に使用した計算方法、使用した資料名称等を記載
2. 将来推計(BAUケース)	
(1)推計方法	□ 計画策定に使用した計算方法を記載